



## 1年生岡山空襲について学ぶ

岡山空襲は、昭和20年6月29日の寝静まった午前3時前から住宅地なども爆撃する無差別爆撃として実行されました。空襲警報が出されなかったため死者が1,737人にも及んだ悲惨な戦争の出来事でした。1年生は29日、クラスごとに岡山空襲について学びました。多目的室に当時の写真や焼夷弾の実物

大の模型を展示し、ビデオなども見せながら戦争の悲惨さ、むごさを学び、「戦争を次の世代に伝えていくこと」や「戦争を二度とくり返してはならないという気持ちを持ち続けること」が大切であることを学びました。そして初めて触れた焼夷弾の実物大の模型はかなり重く、写真や映像だけでは伝えることができな

いものを伝えることができたようです。



焼夷弾の実物大の模型



## オフメディアへの取組

今年度から、本校ではテスト範囲発表が行われるテスト2週間前から、「オフメディア2WEEK」として、地域協働学校の家庭教育部会と生徒会の協働で取組を行いました。

取組の目的は、(電子)メディアへ際限なく触れている(メディアに振り回されている)現状に気づくことや全員でメディアへの制限を意識することで、時間の新たな使い方を考えることでした。家族も一緒になって取り組めることが、この取組を推進する大きな力になると思っています。2学期からは、福島小、南輝小と3校合同で、10月9日～10月15日の期間にこの取組をすすめていきたいと思っていますので、ご協力をお願いいたします。



【生徒集会でのアピール】



【生徒会作成のポスター】

### 【事後のアンケート結果】

- ①オフメディアへの意識
- ②計画したオフメディアの実践
  - ①②とも、「できた」と「まあまあできた」を合わせると約6割
- ③使わなかった電子メディア
  - ゲーム機・スマートフォン
  - テレビ (DVDも)・音楽プレーヤー
- ④新たな時間の使い道
  - テスト勉強・睡眠
  - 家族との時間・読書

これは生徒の学習計画表に、保護者の方がコメントを書いてくださったものです。お子様の様子をしっかりと見ていただけていると感じました。このようにコメントを返していただくと、生徒たちは元気が出ます。保護者の皆様の応援を次回もよろしくお願いいたします。

### 【取組についての保護者の感想】

- テレビを見ながらの勉強時間を意識的に減らしていて、勉強も頑張れたと思う。(1年生)
- オフメディアのことを一応意識はしていたようですが、なかなか難しかったようでした。次回の取組が楽しみです。(1年生)
- メディアを見ないように気をつけていましたね。そのおかげで勉強に集中できたようです。(1年生)
- オフメディアを意識してこれまでの中で一番努力していたと感じます。(2年生)
- オフメディアを意識することで、実践できていました。日頃から心がけ、引き続きオフメディアを続けてもらいたいです。(2年生)
- メディアに関しては、しっかりとできていたと思います。テスト勉強も本人なりに頑張っていた気がします。(3年生)

## ありがとうの奇跡

7月13日(金)に、たけさんこと河村武明さんと奥様を京都からお招きし、「不思議なありがとうのチカラ」と題して、たけさんのプレゼンと奥様の朗読でご講演をいただきました。

34歳の時に脳梗塞で倒れ、失語症、言語障害、聴覚障害、右手麻痺という重い後遺症が残ってしまいました。「もう死んだほうがましだ」という深い絶望感の中、残った左手を使って絵と言葉で表現し始め、新たな生きる希望を見出しました。

『失ったものを数えるより、できることを数えると幸せになれる。障害を持ったからこそ、新たな自分と出会えたのだから、病気になったことも「ありがとう」という気持ちを持つことができた。できることを探して始めた言葉を添えた絵を描くことで、たくさんの方に元気を渡すことができた。「ありがとう」と毎日毎日言い続けることで、本当に自分の気持ちも周りの人の気持ちも明るくなった。「ありがとう」を言い続けると、自分にもいいことが返ってくるようになった。言葉はプーメランのように、最後は自分に返ってくる。食べ物でも、植物でも、「ありがとう」を言い続ける実験をしたら元気が長持ちした。』

失語症で話せなくなったたけさんが、本校で490回目の講演を行うことができたのは、本当に「ありがとうの奇跡」です。暑い体育館の中でしたが、最後まで一生懸命聴いてくれた生徒の皆さん、ありがとう。たけさんも奥様も感謝されていました。これからの生活に、たくさんありがとうが響き合うことを願っています、と伝えられて岡山を後にされました。

### ○生徒の感想から○(1・2・3年生)

- たけ先生が言ってくれたことを忘れずに生きていきたいと思った。毎日「ありがとう」と思えるよう



になりたい。「ありがとう」を先に言えるようになりたいと思った。●今までは相手を傷つけることも言ったりすることがあったが、これからは優しく接していきたい。ピンチの時こそ「ありがとう」と言えるようにしたい。●講演会で聴いたように、何かにイライラすることがあったりすると、「手に書く+6秒間待つ」というのをしてみたいと思います。●今回の講演を聴いて、本当に感動しました。今までも講演会はありましたが、こんなに話に夢中になり、目が離せなくなったのは初めてです。私は今日ありがとうの大切さを知り、どれほどの効果があるかを知りました。これからはピンチの時にありがとうを言うことにします。●今日はありがとうの言葉の力、ありがとうと言うと自分にいいこととして返ってくるということを教えていただきました。心の中でありがとうを言うだけでは伝わらないということが、今日の講演会でよく分かりました。●たけ先生の話聞いて、嫌な事、苦しい事でも、少しだけ見方を変えて、自分の味方にしようと思えました。そしてどんな小さな事にも感謝しようと思えました。●何があっても誰に対しても、ありがとうと感謝していこうと思いました。ありがとうがあふれる毎日にしていきたいです。●嫌なことでも「ありがとう」と自分に言い聞かせる。努力もして



講演会の終わりにたけさんと全校生徒で記念撮影

たけさん

「ありがとう」と言えば自分に返ってくると信じて頑張りたい。

講演会では、とても分かりやすく「ありがとう」の力を教えてもらったと家で話したら、弟や妹もたけさんの講演を聴きたいと言って、と教えてくれました!

### 【生徒会長のお礼の手紙の抜粋】

僕が印象に残ったことは、「想像したことは創造できる」ということです。自分に自信を持って、なりたいたいイメージを強くイメージしながら、物事に取り組むとなりたい自分になれる、というのは今まで自分になかった考えなので、これからはなりたいたい自分のイメージを持って取り組んでいきたいと思いました。また、自分がやったことは必ず自分に返ってくるということも強く印象に残りました。良いことをやったら良いこと、悪いことをやったら悪いことが返ってくる。このことは僕も何度も体験したことだし、たけさんに言われてより確信が深まりました。たけさんの作品には、感謝の言葉が入っています。その作品を見て、「ありがとう」の言葉とたけさんの話を思い出して、「もし何かを言われても、ありがとうと言いつけよう」と気持ちを新たにしました。そして、ありがとうを言い続けることで、自分も周りの人も人生を楽しめるように頑張っていきたいです。これらのことは、これからの生活に活かしていきたいです。

### 部活動の活動成果

県大会

#### 女子バレーボール部

- 3年：佐藤詩桜、小森くるみ、川崎美玖、楠本真子
- 2年：井上葉那、杉原佐和、井上凜、杉田咲、山本寛子
- 1年：山下結菜、渡邊奏羽、森脇あかね

#### 剣道部

- 女子個人 3年：武田葵衣

#### 陸上競技部

- 3年：原田栞 (リレー)、白神綾乃 (100m)
- 2年：扇野愛翔 (リレー、400m)、岡本昇悟 (走り高跳び)、仁科遼大 (800m、1500m、リレー)、森川葉月 (100m、200m、リレー)、梶本真叶 (100m、リレー)、西村美夏 (リレー)、守本詩麻 (リレー、100m、200m)、岡田夏美 (リレー、100mハードル)

### 校外での活動成果

#### 空手

- 2年：大室晃生

全国大会

#### ボーリング

- 2年：塩尻裕也